

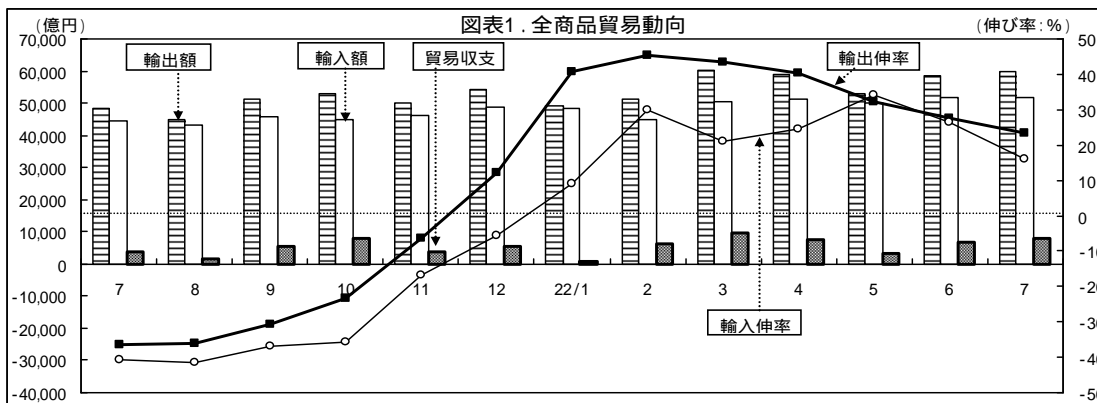
最近の機械貿易動向(7月)～機械輸出の回復速度鈍化～

2010.9.13.

平成22年7月の機械輸出額は、3兆9,818億円、対前年同月比28.4%増と4カ月連続で伸び率が鈍化した。この輸出額は、リーマンショック以前の平成20年7月の79%の水準である。この要因は、円高と1日少ない営業日により伸び率が9.2%減少したこと、その他地域、NIES/ASEN向けが伸び率を低下させたこと、全体の1/3を占める自動車は25.1%増と伸び率を鈍化したことによる。8月の機械輸出は、実質伸び率を7月の37.6%増とすると、円高の高進と1日多い営業日から1.5%の減少要因となり、前年比36%増程度なるものと予想される。因みに、8月上中旬の全商品輸出額は19.1%増である。

1. 全商品貿易動向～輸出は23.5%増と高水準ながら5ヶ月連続で伸び率減少～

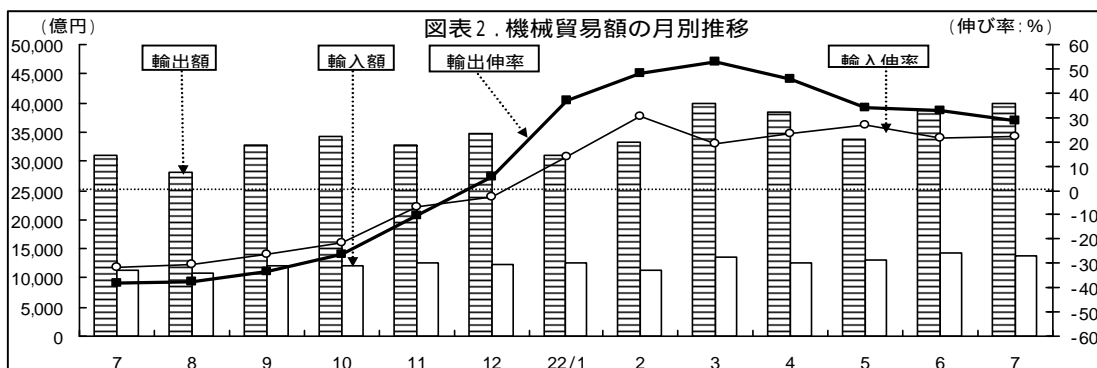
- 平成22年7月の全商品輸出額は5兆9,827億円、前年同月比(以下同じ)23.5%増と高水準ながら5ヶ月連続で伸び率を低下させている。商品別では、全輸出額の20%を占める一般機械(53.1%)が伸び率をさらに拡大したが、13%の鉄鋼等原料別製品(25.6%増)、23%の輸送用機器(20.9%増)、19%の電気機器(16.6%増)は前月より伸び率を減じている。
- 輸入額は5兆1,807億円、16.0%増と前月を大きく下回った。これは、全輸入額の28%を占める鉱物性燃料(14.3%増)、9%の鉄・非鉄金属等原料別製品(26.3%増)が伸び率を大きく低下させたためで、8%の鉄鉱石等原料品(37.8%増)、3%の輸送用機器(52.7%増)は伸び率を高めている。
- この結果、7月の貿易収支は、輸出の伸び率が輸入を上回り、2.1倍の8,020億円の黒字となった。



2. 機械貿易動向

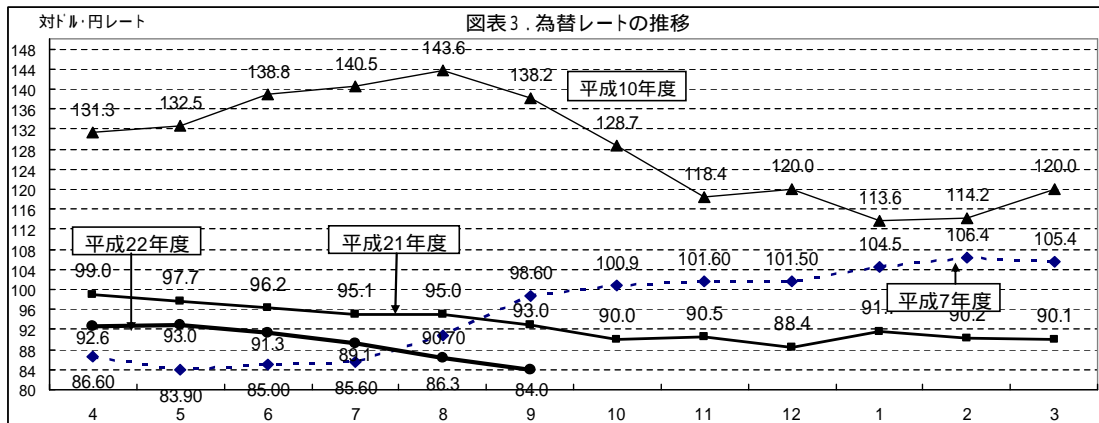
(1) 機械輸出入動向～機械輸出28.4%増と4ヶ月連続で伸び率鈍化～

- 全商品輸出額の67%を占める7月の機械輸出額は3兆9,818億円、28.4%増と4ヶ月連続で伸び率を鈍化させた(6月32.7%増)。この輸出額は、リーマンショック以前の平成20年7月の輸出額に比べ79%の水準である(6月81%)。
- 一方、全商品輸入額の27%を占める機械輸入額は、1兆3,861億円、22%増とほぼ伸び率は横這いであった(6月21.5%増)。輸入額は、一昨年に比べ84%の水準である(6月85%)。



(2) 為替動向・営業日～為替は7月は4.7%、8月は6.3%、9月は6.9%の減少要因～

- ・7月は1ドル = 89.4円と円高が進み、前年比6.3%の円高となり、対ユーロでも極端な円高状態が続き16.5%の大幅な円高となった。この結果、円建輸出額では4.7%の減少要因となった。営業日は前年より1日少なく4.5%の減少要因となった。あわせて9.2%の減少要因となった。この結果、7月の機械輸出伸び率は28.4%増であったが、実質伸び率は37.6%増と6月よりも微増となった(6月37%増)。
- ・8月は1ドル = 86.3円と円高がさらに進み、前年比9.2%の円高となった。対ユーロでも極端な円高状態が続き17%の大幅な円高となった。この結果、円建輸出額では6.3%の減少要因となる。営業日は前年より1日多く4.8%の増加要因となる。あわせて1.5%の減少要因となる。9月は、対ドルが現状の84円(最大の円高となった平成7年5月の水準)とすれば9.7%の円高、対ユーロが現状の107円とすれば20.1%の円高となり、為替は円建輸出額の6.9%の減少要因となる。一方、営業日は前年より1日多いので、5.3%の増加要因となる。あわせて1.7%の減少要因となる。



(3) 地域別動向～中国向けの伸び横這い、その他地域、NIES/ASEAN向け鈍化～

- ・7月は伸び率をやや低下させたが、最も大きな伸びとなったのが機械輸出額の18%を占める中国向けで、半導体製造装置等産業機械、建設機械、工作機械、陸用内燃機関が大幅に伸び、前月横這いの35.2%増となった。次に伸びたのが21%のその他地域向けで、ロシア・東欧(2倍)、インド(38.7%増)、アフリカ(36.9%増)、大洋州(35.7%増)向けが好調、機種では約半分を占める自動車(50.8%増)が好調で33.9%増となったが、伸び率は前月を大きく下回った。29%のNIES/ASEAN向けは、仕向け国では、インドネシア、タイ、台湾向けが、業種では産業機械、建設機械、自動車が好調で、31.6%増となったが前月より鈍化した。20%の北米向けは、輸出額の36%を占める乗用車(11.9%増)の伸びは鈍化した。自動車部品、産業機械、建設機械、陸用内燃機、農業機械などが好調で、22.7%増と僅かに上昇した。12%の欧州向けは、乗用車、デジカメなどが前年比マイナスとなったが、産業機械、自動車部品、光学機械、建設機械が伸び13.6%増と伸び率はやや回復した。

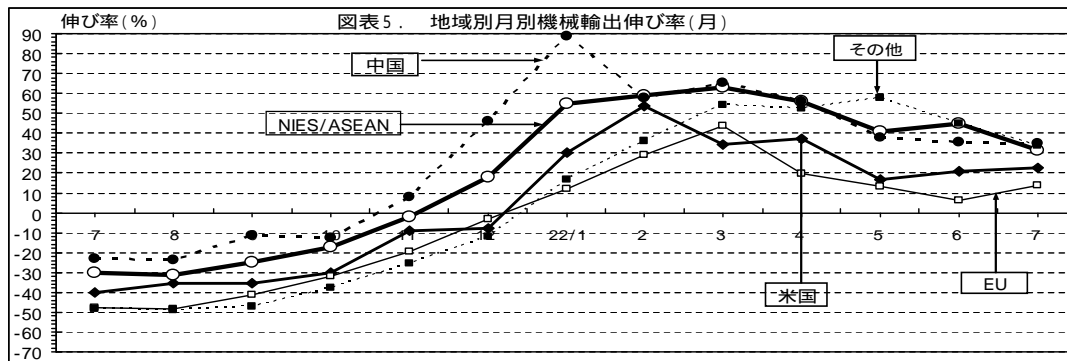
なお、各地域向け輸出額を世界金融危機以前の平成20年7月と比較すると、中国向けが唯一、2年前を上回り、NIES/ASEANは近づきつつあるが、EUまだ60%の水準である。

図表4. 最近の地域別機械輸出動向

(単位: 億円)

	2010/5			2010/6			2010/7			対08年7月比
	金額	伸び率	シェア	金額	伸び率	シェア	金額	伸び率	シェア	
全世界計	33,717	33.9	87	38,719	32.7	100	39,818	28.4	100	0.79
北米	6,272	16.8	16.2	7,845	21.0	20.3	8,138	22.7	20.4	0.79
EU	4,329	13.0	11.2	4,363	6.4	11.3	4,592	13.6	11.5	0.59
NIES/ASEAN	10,107	40.9	26.1	11,514	45.0	29.7	11,577	31.6	29.1	0.92
中国	6,105	37.9	15.8	6,825	35.8	17.6	7,254	35.2	18.2	1.04
その他	6,903	57.6	17.8	8,172	45.1	21.1	8,257	33.9	20.7	0.65

は、2ヶ月連続で前年比10%以上プラス。



図表6. NIES/ASEAN・その他地域向け機械輸出の推移(月別) (金額単位: 億円)

国名	2010/4		2010/5		2010/6		2010/7	
	金額	伸び率	金額	伸び率	金額	伸び率	金額	伸び率
韓国	2,129	53.0	1,677	29.0	2,054	44.4	2,021	31.9
台湾	2,195	77.2	1,964	58.8	2,139	47.2	2,156	44.3
香港	1,859	31.0	1,835	26.8	2,056	35.7	2,120	25.4
タイ	1,500	74.1	1,391	55.7	1,632	64.9	1,747	53.4
シンガポール	1,123	26.4	860	13.0	995	25.7	883	14.3
インドネシア	784	140.4	777	83.9	853	80.7	884	80.6
マレーシア	842	53.8	752	46.1	881	49.7	859	30.8
フィリピン	565	69.1	550	58.8	544	25.9	557	29.6
ベトナム	294	38.5	269	18.2	311	28.8	316	4.4
その他地域								
中南米	2,564	48.7	2,634	59.7	2,992	35.7	3,092	28.0
中近東	1,372	28.7	1,228	48.2	1,674	61.5	1,449	9.3
大洋州	1,530	82.2	1,157	59.7	1,261	60.7	1,187	35.7
ロシア東欧等	935	61.2	894	66.6	1,076	70.6	1,214	101.7
アフリカ	880	37.8	600	55.2	674	15.8	834	36.9
インド	400	22.3	353	55.1	439	61.0	435	38.7

は、2ヶ月連続で前年同月比プラス(10%以上)

(4) 業種別動向 ~ 全 19 業種中 14 業種が 10%以上の伸び、自動車は引続き鈍化 ~

・業種別では、全 19 業種中 17 業種が前年比プラス、うち 14 業種が 10%以上の伸びとなった。全体の約 1/3 を占める自動車が 25.1%増と伸び率を更に鈍化させた(6 月 38.9%増)。高い伸びとなったのが工作機械、建設機械、陸用内燃機関で 2 倍以上、繊維機械、産業車両、ベアリング、産業機械は約 50%以上の増加となった。

一方、通信機器(20.5%減)が 4 カ月連続で、電子計算機もマイナスとなった。

・なお、世界経済不況以前の平成 20 年 7 月の輸出額と比較すると、船舶、医療機械、繊維機械は 2 年前の水準を超えたが、産業車両、電子計算機はまだ 50%台の水準である。

図表7 上位19業種の輸出額の動き (単位: 億円, %)

2010/5				2010/6				2010/7				対08/7 比
機種名	金額	伸び率	シェア	機種名	金額	伸び率	シェア	機種名	金額	伸び率	シェア	
自動車	10,018	44.6	26.1	自動車	12,537	38.9	32.4	自動車	12,177	25.1	30.6	0.69
産業機械	6,062	38.7	15.8	産業機械	6,398	41.1	16.5	産業機械	7,106	49.7	17.8	0.88
電子デバイス	3,374	25.7	8.8	電子デバイス	3,645	18.6	9.4	電子デバイス	3,730	16.5	9.4	0.84
民生用電子機械	1,972	11.9	5.1	民生用電子機械	2,088	15.8	5.4	民生用電子機械	2,091	7.0	5	0.66
軽電気機械	1,954	35.7	5.1	軽電気機械	2,066	31.8	5.3	軽電気機械	2,274	30.6	5.7	0.88
船舶	1,853	40.8	4.8	船舶	2,335	22.2	6.0	船舶	2,419	9.4	6	1.36
重電気機械	1,714	18.8	4.5	重電気機械	1,904	30.5	4.9	重電気機械	2,043	25.9	5.1	0.86
光学機械	1,244	40.7	3.2	光学機械	1,274	36.9	3.3	光学機械	1,339	30.5	3.4	0.99
軽機械	1,088	32.9	2.8	軽機械	1,209	37.7	3.1	軽機械	1,294	30.9	3.2	0.72
建設機械	848	88.2	2.2	建設機械	1,057	112.8	2.7	建設機械	1,125	136.7	2.8	0.71
電子計算機	538	3.2	1.4	電子計算機	653	16.6	1.7	電子計算機	577	4.7	1.4	0.59
通信機械	512	17.9	1.3	通信機械	577	16.6	1.5	通信機械	547	20.5	1.4	0.62
工作機械	471	95.9	1.2	工作機械	539	127.0	1.4	工作機械	592	164.6	1.5	0.65
ベアリング	317	62.3	0.8	ベアリング	372	62.3	1.0	ベアリング	384	59.2	1.0	0.98
陸用内燃機関	304	81.8	0.8	陸用内燃機関	366	99.6	0.9	陸用内燃機関	383	105.3	1.0	0.88
医療機械	275	7.5	0.7	医療機械	323	3.0	0.8	医療機械	340	8.7	0.9	1.25
繊維機械	177	100.2	0.5	繊維機械	196	92.1	0.5	繊維機械	189	92.4	0.5	1.06
農業機械	154	18.5	0.4	農業機械	158	55.1	0.4	農業機械	163	41.2	0.4	0.79
産業車両	103	86.1	0.3	産業車両	122	90.1	0.3	産業車両	132	66.5	0.3	0.50
20業種合計	32,978		97.8	20業種合計	37,819		97.7	20業種合計	38,905		97.7	0.79

は2ヶ月以上連続で10%以上増加、民生用電子機械: ティンガ、TV、部品、電子計算機: パソコン、HDD、プリンタ等部品、軽電気機械: 白物家電、電子計測器、軽機械: 分析器、光学機械: 光学材料、カメラ。

(5) 機種別動向～産業用ロボット、半導体等製造装置、工作機械、建設機械等が2倍以上増～

・伸び率上位機種は、EU、韓国・台湾、中国等全世界向け産業用ロボット(3.2倍)、韓国・台湾、中国、北米向け半導体等製造装置(2.7倍)、中国、北米、ASEAN等全世界向け工作機械(2.6倍)、中国、その他地域、ASEAN向け建設機械(2.4倍)、韓国・台湾等全世界向け電子顕微鏡等電子応用機器(2.2倍)、北米、中国等全世界向け陸用内燃機関(2倍)、中国、その他地域向け繊維機械(92.4%増)、韓国・台湾、中国等全世界向け電気・電子計測機(83.5%増)、その他地域、ASEAN向け産業車両(66.5%増)、韓国・台湾、中国等全世界向けペアリング(59.2%増)などである。一方、最も落込み幅が大きいのが、エアコン(82.2%減)、携帯電話(78.5%減)、ラジオ(30%減)、発電機(28.8%減)、据置型VTR、TV(14.9%減)であった。

図表8. 伸び率上位機種(月50億円、前年比伸び率、10機種以内) (単位:億円)

2010/5			2010/6			2010/7		
機種名	金額	伸び率	機種名	金額	伸び率	機種名	金額	伸び率
半導体等製造装置	1,300	203.3	半導体等製造装置	1,283	159.3	産業用ロボット	92	220.0
産業用ロボット	69	122.1	工作機械	539	127.0	半導体等製造装置	1,475	175.3
貨物自動車	587	109.8	産業用ロボット	76	126.3	工作機械	592	164.6
繊維機械	177	100.2	建設機械	1,057	112.8	建設機械	1,125	136.7
電気・電子計測器	366	97.2	陸用内燃機関	366	99.6	電子応用機器	41	123.9
工作機械	471	95.9	繊維機械	196	92.1	陸用内燃機関	383	105.3
建設機械	848	88.2	産業車両	122	90.1	繊維機械	189	92.4
産業車両	103	86.1	電気・電子計測器	405	88.4	電気・電子計測器	459	83.5
陸用内燃機関	304	81.8	貨物自動車	789	88.1	産業車両	132	66.5
ペアリング	317	62.3	バルブ・コック	345	67.3	ペアリング	384	59.2
機種合計	4,542	13.5%	機種合計	5,178	13.4%	機種合計	4,872	12.2%

は、2ヶ月連続で上位機種 機種合計の%は輸出額に占める割合

図表9. マイナス伸び率上位機種(月3億円以上、10%減以上、10機種以内) (単位:億円)

2010/5			2010/6			2010/7		
機種名	金額	伸び率	機種名	金額	伸び率	機種名	金額	伸び率
携帯電話	3	87.2	携帯電話	3	94.0	エアコン	9	82.2
エアコン	13	77.1	エアコン	9	82.2	携帯電話	3	78.5
発電機	78	61.7	発電機	119	26.9	ラジオ	10	30.0
運搬機械	174	19.6	運搬機械	210	12.0	発電機	129	28.8
ラジオ	9	11.1				据置型VTR	9	24.7
						TV	93	14.9
機種合計	274	0.8%	機種合計	341	0.9%	機種合計	151	0.4%

は、2ヶ月連続でマイナス上位10位内 *機種合計の%は機械輸出額に対する割合

(6) 機械輸入動向～乗用車、TV、航空機、光学機械は高い伸び

・7月の機械輸入額は22%増と伸び率はほぼ横ばいであった。その要因は、乗用車、TV、航空機、光学機械は大きく伸びたが、二大輸入機種の電子デバイス、電子計算機は10%台の伸びではあったが、電子計算機の伸びが鈍化したこと、重電気機械、携帯電話、民生用電子部品の伸び率が鈍化したことによる。

なお、輸入額が輸出額を上回っている機種は、電子計算機、白物家電、TV、携帯電話、医療機器、時計、ラジオとなっている。

・地域別機械輸入額は、全体の40%と最大の輸入先の中国(25.2%増)、ASEAN(22.5%増)、北米(10.7%増)、韓国・台湾(18.6%増)、EU(29.8%増)の順となっている。

図表10. 機械輸入額上位12機種 (単位:億円、%)

2010/5				2010/6				2010/7			
機種名	金額	伸び率	シェア	機種名	金額	伸び率	シェア	機種名	金額	伸び率	シェア
電子デバイス	1,865	29.0	14.3	電子デバイス	1,881	11.4	13.1	電子デバイス	1,881	12.9	13.6
電子計算機	1,656	42.8	12.7	電子計算機	1,845	35.6	12.8	電子計算機	1,606	19.2	11.6
重電気機械	611	34.4	4.7	重電気機械	674	20.8	4.7	自動車部品	662	34.2	4.8
自動車部品	604	67.2	4.6	自動車部品	641	43.8	4.5	重電気機械	633	14.5	4.6
白物家電	530	7.4	4.1	白物家電	614	5.9	4.3	白物家電	574	16.5	4.1
乗用車	489	70.2	3.7	乗用車	503	53.5	3.5	乗用車	546	103.9	3.9
民生電子部品	383	29.9	2.9	携帯電話	483	65.0	3.4	TV	486	88.6	3.5
医療機器	373	14.0	2.9	TV	462	91.3	3.2	携帯電話	414	41.4	3.0
携帯電話	368	62.2	2.8	医療機器	400	0.9	2.8	航空機	405	71.2	2.9
TV	366	106.9	2.8	民生電子部品	371	24.4	2.6	医療機器	389	5.3	2.8
航空機	333	81.6	2.5	航空機	370	6.5	2.6	民生電子部品	381	14.7	2.7
光学機械	288	18.3	2.2	光学機械	324	7.7	2.3	光学機械	322	17.8	2.3
12機種合計	7,866		60.1	12機種合計	8,568		65.5	12機種合計	8,299		59.9

は対前年比が2ヶ月連続で10%以上増加。白物家電:民生用電気機械